

平成 27 年度 五泉市道徳部 活動報告

部長 古田 直美

1 研究主題

豊かな道徳性を育む授業を探る

2 研究の概要

研究主題をもとに、日常の授業づくりに生かすという観点から研究を行い、成果をまとめる。

3 研究の実際

(1) 講演会「道徳の教科化について」(6月)

阿賀野市立保田小学校長の土田暢也様を講師に迎え、講演会を行った。

教科化の背景には、いじめ等の問題行動やそれらの問題の多様化がある。そこで、それを改善するべく教科化が導入されることになったというお話であった。

実際に授業を行うにあたって「発問」「子どもの立ち位置」「資料の吟味」「評価」の3つがあげられた。特に発問は、子どもに考えさせたい価値に迫るために何を問うのかをしっかりと吟味する必要があるというご指導をいただいた。

(2) 指導案検討会(9月)および授業研究(10月) 授業者 大関一教 教諭(愛宕小:2年担任)

(ア) 主題名 : 「ともだちと なかよく」 2-(3)友情・信頼、助け合い

(イ) 資料名 : 「およげない りすさん」 出典『わたしたちの道徳』

(ウ) ねらい : りすさんの気持ちを思いやって、みんなで遊ぶことの大切さに気付き、誰とでも仲よくしようとする心情を育てる。

(エ) 授業の概要

導入では、事前に記入した「友達にしてもらってうれしかったこと・楽しかったこと」を振り返った。資料を提示する際、動物たちがりすをおいて島に行った場面で中断し、りすの気持ちを確認した。また、まわりの動物の気持ちにも触れ、かめが「いい考えがある」と言ったことについて考えさせ、「かめの背中にりすを乗せてあげる」「泳ぎ方を教えてあげる」等、仲間と遊ぶことが楽しいことや相手を思いやることに気付かせていった。

(オ) 協議会

協議会では「りすに対する思いを考えることができたか」「友達と互いに助け合って、仲よくしようとする気持ちが高まったか」の評価の観点に沿って話し合った。提示の工夫や、子どもたちの言葉を板書したことで、それぞれの登場人物の気持ちを考えることができていた。また、「どうしてあげればよい？」という広い視野で、3匹がりすを思う気持ちに迫ってもよかったのではないかという意見も出た。振り返りも実生活に沿うようなもので考えさせ、具体的な場面や言葉で書いていくようにさせたいという意見が出た。

4 成果と課題

平成30年度からの「道徳科」実施に向けて、より魅力と弾力のある授業づくりが求められている。今年度、「教科 道徳」に関する講演会を開催することができたのは大きな成果であった。また、事前検討会を設けた上での授業公開であったので、参加者も授業者である大関教諭の意図を把握して参観でき、充実した研修となった。